

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成30年度）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究 代表者	部局	文学部		
	職	教授		
	氏名	内藤 千珠子		

1. 研究種目名 基盤研究(C)(一般) 2. 課題番号 15K02259

3. 研究課題名 日本語文学における検閲とジェンダー

4. 補助事業期間 平成27年度～令和元年度

## 5. 研究実績の概要

大正・昭和期の新聞・雑誌メディアの言語と小説の言語を主な分析対象とし、ジェンダーをめぐる言説論理が検閲制度とのかかわりによってどのように形成されたのかを明らかにしようとするのが、本研究の目的である。戦前期の検閲は、制度としての伏字を基軸として実践されたが、本研究では検閲とジェンダーという主題に基づき、伏字とジェンダーの力学の関係を検証した上で、伏字のもつ記号の効果を理論化し、検閲という観点から、日本語文学におけるジェンダー編成を明らかにすることを目指した。

本年度は、(1) 明治期の言説編成をめぐる資料調査、(2) 現代における明治・大正期の物語の表象という2点を念頭に、資料調査と考察を行った。大妻女子大学図書館、国立国会図書館、国文学研究資料館、都立図書館等で、1次資料を収集するとともに、調査を進めた。その過程で、不可視にされた戦時性暴力の構造について考察し、可視と不可視の境界線がどのように記述されるかという観点から、女性身体と暴力の構造、セクシュアリティをめぐる規範の生成、それにかかわる検閲的な禁止の問題について考察を進めた。

また、ジェンダー論やセクシュアリティ研究、クィア理論に関する理論的文献について、研究会等での発表や討議を通じて、新たな理論的地平を獲得することにつとめた。そのなかで、プライベートな領域の策定と公への「現れ」を規制するセクシュアリティの制度について検証するとともに、ナショナリズムをめぐる情動の構成をジェンダー論的な観点から考察し、国内学会等で研究発表をおこなった。

かつての検閲をめぐる感性がナショナリズムの情動とどのように切り結ぶのか検証し、その情動には不可視化されたかたちで性暴力の構造が伴われるというテーマ設定のもと、分析をおこない、考察の一部を論文にまとめた。

## 6. キーワード

文学 ジェンダー メディア

## 7. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。

理由  
資料収集としては、明治期の新聞資料と、1930年代の雑誌資料を中心に資料調査を進め、言語態分析をおこなった。  
資料をもとにしながら、明治期の公娼制度をめぐる言説の構造が、現代の戦時性暴力をめぐる言説の骨格になっているという観点のもと、それらの言説と検閲制度との論理的関わりについて検証をすすめた。その内容を、日本近代文学会で発表するとともに論文にまとめた。「娼婦的身体」として表象される女性身体の問題を、「公への現れ」という観点、あるいは戦争時の規制とのかかわりから考察し、論文にまとめた。また、ジェンダー・クィア研究会への参加を中心として、理論的な問題を共有しながら研究活動をおこなった。シアトルで開かれた国際ワークショップにも参加し、関心を共有することができた。  
研究発表と、その内容に基づいた論文化の作業を進めることができ、研究の目的である「検閲とジェンダー」について、考察を深めることができた。進捗状況はおおむね順調だといえる。

1 版

## 8. 今後の研究の推進方策

現在まで、特に大きな問題はなく研究を進めることができたので、当初の研究計画にそって研究を推進していきたいと考えている。大妻女子大学図書館、国立国会図書館、国文学研究資料館や、国内外の研究施設・図書館を利用し、1次資料の収集にあたりたい。  
2019年度は、トランス・パシフィック・ワークショップ（日米）、東アジア女性文学研究会（日韓）、ジェンダー・クィア研究会での活動を継続するとともに、アメリカや韓国の研究者とも連携するかたちで、研究発表と研究交流を進めていきたいと考えている。

## 9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

次年度使用額が無いため、記入しない。

## 10. 研究発表（平成30年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 内藤千珠子	4. 巻 68-1
2. 論文標題 経済化する身体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 69-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千珠子	4. 巻 50
2. 論文標題 帝國的性暴力と「恥辱」の被傷性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大妻国文	6. 最初と最後の頁 123-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 内藤千珠子
2. 発表標題 恥辱と中傷のナショナリズム
3. 学会等名 日本近代文学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 今井久代・中野貴文・和田博文・内藤千珠子ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 454
3. 書名 女学生とジェンダー	

1 1. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

1 2. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4. 備考

内藤千珠子「共鳴と獄死」近代文学合同研究会、2019年（研究発表）